

主の聖名を讃美いたします。

桜の蕾も開き、春風が心地よく感じられる頃となりました。去る2月28日には第19回定期総会を無事終えられましたこと、感謝いたします。総会報告書と九州版ひびきの発行が18期最後の活動です。皆さまに3年間の感謝を込めてお届けいたします。



鈴木直子連盟会長

鈴木連盟会長より 教区総会時のご挨拶

任期中、それぞれの教区を1回ずつお訪ねしました。各教区で役員をお選びになる時にご苦労があるとお聞きします。聖研も奉仕も男性と一緒に同じようにするようになると、女性会不要論も出てきます。けれども女性会はただ奉仕するだけの会ではありません。この女性会の働きを通して、サバ神学院を支援し、そこからサバが世界伝道に出られた、ということはここにおられる皆さん、全国の連盟会員が少しずつお支えしてきたからです。一人ではできません。教会を離れたところで多くの信仰の友を持っているということも、一つの教会ではなし得ないことです。LWFの働きについては、(女性への抑圧や暴力は)男性の手だけでは決して

解決し得ないことが多く含まれています。そのような時に女性が連帯の心を持ちあって支えていく、それは大きなことではなく一つの働きに参加することによって小さな働きが何かにつながっていく、ということが連盟の働きだと思っています。この3年間で思いを新たにしました。今あるものを過小評価するのではなく、もっといいものにしようと、次に引き継いでいきたいと思います。皆さまのお支えなくしては連盟はあり得ませんので、これからもどうぞお支えをお願いいたします。

秋山仁牧師(喜望の家後援会会長)による喜望の家アピール

喜望の家は、大阪市西成区通称釜ヶ崎にあります。主な活動は、野宿生活に陥った生活困窮者のための路上生活相談、アルコール依存症、ギャンブル依存症を抱えた方々の相談、回復のための居場所作り、生活保護受給者のケースワークです。日本の労働人口の3分の2が非正規雇用という中で歳をとった日雇い労働者が、雇ってもらえなくなり路上で生活せざるを得なくなる、そういった方々の生活相談、支援をしています。現在職員は2名、資金は献金による所が多く、予算が足らず人を雇えない状況です。教会が独自に行う活動であり、活動に制約がかかるため公的援助を一切受けていません。皆さまの献金により活動が支えられています。これまでの献金とご協力に感謝しますと共に、ぜひこれからも覚えて献金お願いいたします。



秋山仁牧師

(教区総会時設置された献金箱には、22,000円捧げられていました。ご協力感謝いたします)



よく晴れた 2/28 箱崎教会



可愛らしい手書き看板が出迎えてくれました



布草履は福島の子どものために



手作りカードは教区女性会のために



松隈姉と益永姉が議長を担ってくださいました



シルバークプロジェクト冊子「いこいのみぎわ」



シルバープロジェクト冊子「いこいのみぎわ」の活用の期待と今後について意見が交わされました



左から樂満春子姉、原真理姉、俵恭子姉、
佐藤富美子姉、杉本範子姉



19期役員就任式

18期役員から感謝のメッセージ

岩切旻世（会長）

原稿を寄せてくださった姉妹の協力とつたない私の文章で九州版ひびきも vol.10 最終号となりました。カラーの写真でよく様子が分かる、など読んで下さった感想を聞いた時はとても嬉しかったです。まず、訪ねた先での出会いの喜びがあり、それを綴って伝えた後の喜びがあり、私は幾重にも恵に包まれていたのだと改めて思います。この3年間、たくさんの教会の母に育てていただきました。この恵を分け合えるように、私もバトンを渡せるように歩んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。そして19期の役員の方々を心から応援しています。

山本裕子（副会長・書記・会計）

3年間、皆様に支えられつつ過ごして来られたことに感謝いたします。

若い会長の下、なんとかやってこられたのは、各々の役員が、鉄の女だったからではないかと

思うのです！！信仰に篤く、ここだけは、決して曲げられない、ここだけは、まもる。ということがはっきりした方々でありました。それでも、調和がないというわけではありません。各々信仰に堅く立ち（その中では、私がいちばんへなちょこでした）お互いを思いやりつつ、一つ一つのやるべき事を、大切に成していったと思います。ありがたい事です。

また、人手が必要なときはいつも、箱崎の女性たちが活躍して下さいました。先日の総会ときもそうでした。私は、ただ、受付お願いします。というだけで、実際の作業なにひとつしてません。なのに、正議員数は正確にカウントされ、献金も数えてくださいました。昼食も手際よく準備され、さいごの片付け掃除まで、お任せでした。本当に感謝いたします。

この、3年間の歩みは、大変でしたが、恵み多いものでした。多くの会員の方にお会いし、その方の信仰に励まされ強められたこと、心から感謝します。いつも、ともにいてくださった主に感謝します。次の役員の方々、役を担って下さり感謝します。各々知恵と力をあわせ歩まれますように。主の護り豊かにと祈ります。

「みちしるべ」からの贈り物

財津悠子（文書）

3年間文書に携わり、無事に終わることが出来たことを神様と皆様に感謝いたします。「みちしるべ」を通して、たくさんの女性会々員の方々と出会い、知り合いになれ、うれしく思いました。子ども達とはキャンプの感想文の中で彼らの信仰の成長を知りました。なかでも洗礼への意思をはっきり書いている子もいて、ピュアな気持ちが直に伝わる手書きの原稿を読んだときの感動で、発行までのすべての苦労がすべて吹っ飛んでしまうほどでした。この様にして神様は私に大きな恵みを与えて下さいました。そして、今喜びとともに役を次の方にお渡しする幸せを深く味わせていただいております。

野村加寿子（連盟担当）

女性会連盟九州教区女性会第18期役員会を3年間お支えくださりましてありがとうございます。九州の中でも離れ小島のような大分で、教区のことをよく分からないまま期の途中から連盟担当として役員会に加わり、九州のことを勉強させていただきました。

連盟役員会では6月の総会の審議事項の一つである来期の主題聖句に、コリントー 13章 13節を選びました。愛の賛歌です。全国の女性たちが信仰・希望・愛をもって絆を深めていきたいとの気持ちです。まず今回の総・大会の3日間が手始めです。実りのある3日間になるようにお祈りください。

（文責 岩切旻世）



皆さまありがとうございました！

野村、山本、岩切、財津